

かんざし

簪

■ 出土地：中城御殿跡（旧県立博物館）

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ
押し出土品を、月替わりでご紹介。

平成最後の月となる今回は簪。中城
御殿跡から出土した4点を紹介します。

この金属製品は次期国王となる世子（王子）が暮らした中城御殿跡から出土した簪です。男性用の髪差（本簪）、押差（副簪）と女性用のジューファー（本簪）、側差（副簪）を含む8点が出土し、今回はその内の4点を展示します。

簪は、常時髪にさした髪飾りであると同時に、身分を表しました。また、女性にとっては常に身につけている武器でもありました。髪差は、カブ・頸・ムディ・茎・竿の部分となり、カブの形が身分により異なっています。

男性の髪差は、長さ約10cm（竿が四角柱で先端が太い四角錘）。国王は黄金製でカブに龍の模様が施されてきました。王子、按司、三司官は黄金、親方はカブが金で茎が銀、一般士族は銀、平民は真鍮でした。押差は身分により素材の違いはありますが、いずれも耳かき形の細長い六角形をしています。

女性のジューファーは、素材と長短細太の差はありますが、形はほとんど同型で、カブは直径2cmのスプーン型をしています。側差は、士女以上が正装時にさしていました。